

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

仙台白百合女子大学

令和5年3月

仙台白百合女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ 人間学部人間発達学科
 - 心理福祉学科
 - 健康栄養学科
 - グローバル・スタディーズ学科

目次

I	教職課程の現況及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	14
III	総合評価	18
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	19
V	現況基礎データ一覧	20

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名

仙台白百合女子大学人間学部人間発達学科
心理福祉学科
健康栄養学科
グローバル・スタディーズ学科

(2) 所在地

宮城県仙台市泉区本田町6-1

(3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：人間学部人間発達学科

教職課程履修116名／学科全体155名

人間学部心理福祉学科

教職課程履修1名／学科全体224名

人間学部健康栄養学科

教職課程履修30名／学科全体289名

人間学部グローバル・スタディーズ学科

教職課程履修31名／学科全体231名

(※教職課程履修者数はすべて2年生以上)

教員数：人間学部人間発達学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）14名／学科全体14名

人間学部心理福祉学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）5名／学科全体13名

人間学部健康栄養学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）2名／学科全体11名

人間学部グローバル・スタディーズ学科

教職課程科目担当（教職・教科とも）10名／学科全体14名

2 特色

本学の設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会は、キリスト教の精神にもとづき、地域における子どもたちの教育向上や貧しい人々への食事、病人介助に奉仕するため、教育・福祉事業を展開してきた。本学はこうした伝統を引き継ぎ、人間の理解と援助、教育による女性の社会的地位の向上を建学の精神として、社会に奉仕する、使命感をもった人間を育てることを目的としている。

こうした目的のもとに、本学では人間学部の4学科すべてに、それぞれの学科の特徴をふまえた教職課程を設置している。各学科・コースにおいて取得できる免許状は以下のとおりである。

人間発達学科

- ・幼児教育コース
幼稚園教諭一種免許状
- ・初等教育コース
小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状

心理福祉学科

- ・心理コース
高等学校教諭一種免許状（公民）

健康栄養学科

- 栄養教諭一種免許状

グローバル・スタディーズ学科

- ・イングリッシュインテンシブ・スタディコース
中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）
- ・共生社会・スタディコース
中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）

本学は小規模な大学ではあるが、各学科の特徴を生かしてさまざまな校種・教科の教職課程が設置されていることは大きな特色である。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

学校法人白百合学園が掲げる建学の精神は「キリストの愛の教えに基づく全人教育を通して、社会に貢献できる子女を育成する」ことである。建学の精神を受けて、「シャルトル聖パウロ修道女会の創立の精神に則り、人間の理解と援助・社会変化への積極的対応を常に心がけ、広く人類の福祉に貢献しうる人材を養成すること」が本学の教育理念である。

また、本学の設立目的は「教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づいて女子の高等教育を行うこと」であるが、それは教育的実践においては、「キリストの教えに根差した人間への愛と敬意を基に、幅広い教養と深い専門的知識、豊かな感性と社会感覚を身につけ、人間の真の幸福・平和・福祉に貢献できる自立した女性を育てること」を目的とする。

これらに基づいて、本学人間学部および人間発達、心理福祉、健康栄養、グローバル・スタディーズの4学科が、教育・研究目的とディプロマ・ポリシー（DP、卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（CP、教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（AP、入学者受入れの方針）の3ポリシーを定めている。教職課程教育の目的・目標は各学科の教育・研究目的と3ポリシーに内包され、「学生便覧」、「保証人のためのガイドブック」や本学ホームページ、各種ガイダンスなどを通じて、育成をめざす教師像とともに周知されている。

また、各学科が毎月開催する学科会において、教職課程研究センターの委員を中心とする教職課程教育の担当者から報告があり、必要に応じて審議がなされることで、育成をめざす教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施するよう努めている。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、人間の発達の中で特に幼児期・児童期の教育が極めて重要な役割を果たしているにとらえて、その時期の子どもの発達を理解し援助できる教育者を養成することを目的としている。教職課程教育の目的・目標は、子どもの成長発達を支える専門職として必要な知識・技能を十分身につけていること、教育者・保育者として

必要な、子どもへの豊かな愛情とヒューマニズムの精神を身につけていることである。また、育成をめざす教師像としては、本学の教育理念であるキリスト教の愛の教えに基づき、保育学・教育学・心理学などからのアプローチによって、人間の発達、特に乳幼児期・児童期の子どもの発達を探究し、子どもを理解・支援・教育する能力と知識を持つ保育者・教育者を掲げている。

心理福祉学科心理コースでは、「人間の理解と援助」をベースに心理学を専門的に学び、心理学的知識と科学的方法を身に付けることで、人間の理解と支援のできる教員の育成を目標としている。さらに、福祉の科目も学ぶことで、多様な視点から教育上の諸問題にアプローチでき、生徒のニーズにより深く適切に応えられる教員の養成もめざす。

健康栄養学科では、栄養士・管理栄養士の育成を目的とする学科として、希望する学生を対象に栄養教諭の養成を行っている。育成をめざす教師像としては、本学の教育理念であるキリスト教の愛の教えに基づき、栄養学・教育学・心理学などからのアプローチによって、学童期・思春期の発達を探究し、対象者を理解・支援・教育する能力と知識を持つ栄養教諭を掲げている。

グローバル・スタディーズ学科では、多様な歴史的文化的背景を持つ人々と共生・共創を可能にする人間性豊かなグローバル社会の構築に資する女性の育成を目的とし、英語コミュニケーション能力の獲得を重要な柱に据えるイングリッシュインテンシブ・スタディコースにおいて、英語圏の社会・文化への深い理解をもつ英語コミュニケーション能力の高い教員の養成を、共生社会・スタディコースにおいて、日本の国際化や地域の多文化共生の課題を理解したうえでグローバルな視野に立って教育を実践できる教員の養成をめざしている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程教育の目的・目標は、各学科の教育・研究目的と3ポリシーに内包され、育成をめざす教師像とともに周知が図られている。このことによって、各学科の教職課程教育が円滑に実施される一方で、問題も生じているように思われる。学科レベルでは、教育者の養成を直接の目的とする人間発達学科を除いて、育成をめざす教師像が必ずしも明確でなく、結果として学生への周知が十分なされていない可能性がある。学部レベルでは、教職課程教育の目的・目標や育成をめざす教師像が明示されていない。こうした点について検討が必要である。

関係教職員による教職課程の目的・目標の共有については、教職課程研究センターと学科会を通じて一定程度達成されている。しかし、新任教職員や非常勤講師を含めたすべての教職員の共通理解を図るためには、FD・SDの活用を含めて、機会を充実させる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 『学生便覧 2022 年度』
- ・資料 1-1-2 : 『2022 保証人のためのガイドブック』
- ・資料 1-1-3 : 本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学の各教職課程には、教職課程認定基準を踏まえて必要な教員が配置されている。いわゆる実務家教員については特任教員の一部として任用規程が整備されており、実務経験を有する教員を含めて各学科が必要に応じて採用を検討することで、研究者教員との均衡が図られている。

また、本学では、教職課程の改善および充実を図るとともに、学生が将来教員としての資質能力を主体的に形成していくことができるように支援することを目的として、教職課程研究センターが設置されている。センターの業務は以下のとおり多岐にわたる。

- (1) 教職課程の履修に係る指導助言に関すること
- (2) 教職指導の企画及び実施に関すること
- (3) 教育実習並びに介護等体験に係る調整と指導助言に関すること
- (4) 学校ボランティアに係る指導助言に関すること
- (5) 教員採用試験に係る相談、教員採用試験対策の企画及び実施に関すること
- (6) 教職課程並びに教員養成に係る調査研究及び研究紀要の発行に関すること
- (7) 教職課程運営に関する学科間での調整に関すること
- (8) 教育委員会、諸連絡協議会及び諸学校等の地域の関係機関との連携協力に関すること
- (9) その他センターの目的達成に必要な業務

センターは、センター長 1 名のほか、センター員として、教職課程を設置している 4 学科の担当教員各 2 名程度と教務課職員 2 名程度から構成される。センター長とセンター員で組織されるセンター会議では、原則として月 1 回、センターの運営に関する事項が協議される。センター会議を通じて、センターと学科の教職課程担当者との役割分担が適宜確認されている。さらに、教職課程の運営に関する事務は、教職課程設置学科と教務課で協議のうえ、分担される。センターに関する事務は、教務課において処理され

る。教務課を中心として、教員と事務職員の協働が図られている。

教職課程に関する情報については、教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づいて、本学ホームページ上で適切に公開されている。加えて、各学科のブログでも教職課程に関する情報が積極的に提供されている。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、幼稚園教職課程委員会に実務経験を有する講師 1 名と助教 1 名、小学校教職課程委員会に実務家教員として特任教授 2 名を配置され、各委員会や学科会、共同での授業担当において、研究者教員との視点の共有が図られている。また、幼稚園教職課程委員会と小学校教職課程委員会の双方から教職課程研究センターのセンター員を出すことによって、両教職課程の連携を密にしている。さらに、2021 年度から始まった月 1 回の学科 FD・SD の取り組みでは、各領域・教科や指導法、教職に関わる内容について活発な議論がなされている。

心理福祉学科では、「教育の基礎的理解に関する科目」に 1 名の専任教員、「教科に関する専門的事項」の科目に 4 名の専任教員が配置されている。センターにはそのうちの 2 名が所属し、センターの事務職員と協働しながら教職課程の教育と実務を円滑に運営している。

健康栄養学科では、「栄養に係る教育に関する科目」に 3 名の専任教員が配置され、そのうち 1 名は実務経験を有する教員である。この 1 名を含めた 2 名がセンターに所属し、栄養教諭養成課程は円滑に運営されている。

グローバル・スタディーズ学科では、英語と社会・公民の「教科に関する専門的事項」の科目を担当する各 1 名の専任教員がセンター員となることによって、教科の垣根をこえて情報を共有し、適切な役割分担を図っている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程として必要な施設・設備は整備されているものの、図画工作（造形）や音楽など特別の教室を必要とするものについてはさらに充実が求められる。さらに、ICT 教育環境については、コロナ禍もあって遠隔授業に関わる整備は進んだものの、電子黒板やタブレットの導入などの学校現場で急速に進む ICT 化にはまだ追いつけていない状況である。

教職課程の質向上については、全国私立大学教職課程協会や東北地区私立大学教職課程研究連絡協議会との連携を図り、本学全体の授業アンケートや FD・SD 活動のなかにも役立つものが含まれているものの、教職課程に特化した FD・SD は組織的には実施で

きていない。自己点検・評価についても、今回初めて実施している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 : 「仙台白百合女子大学特任教員の任用規程」
- ・資料 1-2-2 : 「仙台白百合女子大学教職課程研究センター規程」
- ・資料 1-2-3 : 『学生便覧 2022 年度』
- ・資料 1-2-4 : 『2022 保証人のためのガイドブック』
- ・資料 1-2-5 : 本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>
- ・資料 1-2-6 : 本学人間発達学科ブログ <https://www.sendaishirayuri-hds.com/home>
- ・資料 1-2-7 : 本学心理福祉学科ブログ <http://xn--15ty46bqzd8h.jp/>
- ・資料 1-2-8 : 本学健康栄養学科ブログ <https://www.shirayuri-health.net/>
- ・資料 1-2-9 : 本学グローバル・スタディーズ学科ブログ <https://global.holy.jp/>

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学では、各学科における教職課程教育の目的・目標が各学科の DP、CP、AP の 3 ポリシーに内包されているので、教職課程で学ぶにふさわしい学生像もまた 3 ポリシーとあわせて理解されることとなる。3 ポリシーや各学科で取得可能な資格は本学のガイドブックやホームページで紹介され、とくに AP については学生募集要項にも明記されている。これらに基づいて学生の募集や選考を実施するべく、教職員は入学試験説明会やオープンキャンパス、各種ガイダンスなどに臨んでいる。

教職課程の履修を開始するための基準はとくに設けられていない。希望すればすべての学生が教職課程を履修することができるが、1 年次に実施される教職課程履修ガイダンスにおいて学生に教職課程履修願の提出を義務づけることによって、履修への責任の自覚を促している。

履修指導は、「教育課程（カリキュラム）」や「教職課程履修要項」に基づき、「履修カルテ」の作成を含めて適切に行われている。各学科では、教職課程研究センターのセンター員、教務委員、各学年のアドバイザー（教員）が連携して、学生の適性或資質に応じた指導を心がけている。希望する学生のほとんどが免許状を取得できていることから、受け入れている履修学生は適切な規模であると考えられる。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、保育者・教育者の育成を目的とする学科であることから、教職課程で学ぶにふさわしい学生像が AP に直接盛り込まれている。すなわち、子どもの成長・発達・教育の支援に強い関心を持つこと、保育・教育の理論と実践について旺盛な学習意欲を持つこと、将来、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になることを望むことなどである。すべての学生は、入学時に学科ガイダンスにおいて詳細な履修指導を受け、教職課程の履修を開始する。2 年次からは幼児教育コースもしくは初等教育コースに所属することとなるため、1 年次終了時に各コースによるガイダンスを実施し、幼稚園・小学校の各教職課程に対する理解を深めるとともに、教職課程の履修願を提出させることによって、学生に教職課程を履修する責任の自覚を促している。

心理福祉、健康栄養、グローバル・スタディーズの 3 学科は、必ずしも教員養成を主たる目的とした学科ではないが、主要な取得資格の 1 つとして免許状を位置づけ、オー

ブンキャンパスなどでもそのように紹介している。また、同一学科でも所属コースによって免許状取得の可否や取得できる免許状の種類が異なるため、各種媒体やガイダンスなどを通じて周知を図っている。各学科において教職課程履修者の割合はそれほど高くないが、ガイダンスだけでなく個別相談の機会を設けるなど、少人数の特性を生かしてきめ細かな指導を行うとともに、複数の学科の学生が履修できる科目を設定して学生間のディスカッションの機会を設けるなど、規模が小さいことに起因する不利益を補うよう努めている。

〔取り組み上の課題〕

保育者・教育者の養成を目的とする人間発達学科について、入学者が定員を大きく下回る状況が続いてきたため、現在、新たに中学校教諭一種免許状（英語）の教職課程を加えた子ども教育学科の開設を準備している。また、他の3学科についても教職課程を履修する学生の割合は高くない。本学における教職課程の充実に向けて、まずは履修者の増加をめざしたい。

「履修カルテ」については、教職指導での活用が4年次後期に履修する「教職実践演習」などに一部に限られているため、効果的な活用方法を検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：『仙台白百合女子大学ガイドブック 2022』
- ・資料 2-1-2：『仙台白百合女子大学 2022 年度学生募集要項』
- ・資料 2-1-3：『教職課程履修要項 2022 年度入学生』
- ・資料 2-1-4：『教育課程（カリキュラム）』
- ・資料 2-1-5：本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

教職へのキャリア支援の中心に位置するのは教職課程研究センターである。各部署に届けられた教職に関する情報はセンターに集約され、センター内での共有を経て、各学科のセンター員から学生へと周知される。各種ボランティアについては学生課が窓口となる。とくに仙台市教育委員会が実施する学生サポートスタッフ事業は、学内で説明会が開かれることもあって、例年多くの学生が参加している。白百合教師塾（教員採用試

験（教職教養分野）対策講座）は学修支援センターから発信される。すべての学科の学生に共通して必要となる教職教養について、各領域の専任教員が担当する講座を開設し、日程や場所の調整、テキストの準備などを担っている。教員採用試験の志願者への対応はキャリアリソース課との緊密な連携のもとで進められる。仙台市と宮城県の教員採用試験については、近年、学内での説明会が開催されるようになり、学生が教育委員会担当者の声を直接聞くことのできる貴重な機会となっている。また教員採用試験の大学推薦については、通知があってから提出書類の送付まで慎重に対応している。

さらに、教職課程研究センターと並んで、教職支援室が教職へのキャリア支援に大きな役割を果たしている。客員教授である元・仙台市教育長を中心とするスタッフが、学生への個別対応を通じて本人の教職への意欲・適性を把握し、学習支援ボランティアへの参加、教員採用試験対策などにあたりとともに、学生からの相談にも応じている。さらに、卒業生の動向も把握し、継続した支援が行われている。

また、センターが作成する「教育実習体験記」は、学生が先輩の実践から学び自らの実習について考える重要なツールとなっている。各学科における教育実習の事前事後指導も、学生の意欲や適性を把握し、個別に支援するための有意義な時間となっている。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、学科教員による授業外での教員採用試験（小学校全科分野）対策講座および面接練習を実施して、教員採用試験（小学校）受験者を支援している。また幼稚園教職課程では、学科研究室所属の教職員がガイダンスや授業を通じて学生と積極的に関わっている。学科の行事としては、教育実習報告・説明会、教員採用試験報告会、卒業生を招いての講演・座談会などを開催して、学生が自らのキャリアを考える機会となるよう配慮している。

心理福祉、健康栄養、グローバル・スタディーズの3学科では、センター員を中心に、実務経験を有する教員を含めた教職科目担当者が、少人数の特性を生かして、学生の希望をくみ取りながら適切な指導・支援を行っている。また、授業内外において現職教員などを招いて講演や研修を実施し、現場の声を届ける機会を設けることによって、キャリア支援の充実を図っている。

〔取り組み上の課題〕

人間発達学科では、英語に強い小学校教諭が求められていることや、教員採用試験において英語に関する加点措置を導入する自治体が増えていることに対応して、新たに中学校教諭一種免許状（英語）を取得できるよう教職課程の開設を準備している。

心理福祉学科では、高校教諭一種免許（公民）しか取得できないが、近年、中学校の免許を持っていることが教員採用試験の条件に加えられることも多く、就職についてはかなり不利な立場に置かれている。今後、他免許の取得の可能性も探るなどの対策が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 : 『2022 保証人のためのガイドブック』
- ・資料 2-2-2 : 『教職課程履修要項 2022 年度入学生』
- ・資料 2-2-3 : 『2022 年度教育実習体験記』
- ・資料 2-2-4 : 本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学では、CAP制（履修登録の上限）として、1年間に履修できる単位数を原則49単位（ただし、半期28単位）までと定めている。建学の精神を具現化するような特色ある科目としては、「キリスト教学」「人間論」といったキリスト教関係の科目が各年次に配当され、卒業のための必修科目となっているため、教職課程の学生もこれらの科目を履修し、単位を取得して卒業することとなる。

本学の教職課程では、教育職員免許法施行規則および教職課程コアカリキュラムを遵守し、適切なカリキュラムが編成されている。シラバス作成時には、全学的な取り決めに基づいて、教職課程に関する各科目についても、目的や学修内容、評価方法、履修上の注意などについて学生に明確に示すとともに、アクティブ・ラーニングやグループワークなど学生の主体的・対話的で深い学びを促す取り組みの重要性を共有している。

教職指導は、教職課程研究センターのセンター員と教職課程科目担当者、各学年のアドバイザー（教員）、また教務課や学科研究室の職員などが緊密に連携して実施している。出欠の状況や成績に問題のある学生に対しては、教員による個別相談や指導の場を設けている。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、保育者・教育者の育成が本学の教育理念であるキリスト教の愛の教えに基づくものであることを教育研究上の目的として明記している。学科専門科目には教職課程科目が多く含まれ、学科基礎科目群や発展科目群に「子ども発達学」「子ども論」「キリスト教と教育」などの特色ある科目が設定されている。さらに、児童英語や心理学関係の科目を充実させ、幼児教育と小学校教育の接続・連携の視野を持つ教育者を育てるなど、教育現場の新しいニーズに対応できるカリキュラムを設けている。教職指導は各学年のアドバイザー（教員）および幼稚園・小学校教職課程委員会の所属教員によって適切に行われ、各学生の教育実習への参加可否は、各教職課程が教職課程科目の単位取得や幼稚園・小学校一日観察実習への参加などを条件として設定している教育実習参加可否判断基準に基づいて決定される。

心理福祉学科では、心理学をベースに心理学的な人間理解と支援のための知識と技能を学び、社会福祉の科目も同時に学べるカリキュラムを組んでいる。心理学教育の延長線上にそれを生かす道の一つとして教職課程を置き、教職課程科目はもちろんのこと、

それ以外の科目も含めて、とくに心理的な側面（発達心理、学習心理、社会心理、臨床心理）に強みのある公民科教員の育成につなげている。

健康栄養学科では、栄養教諭が小・中学校、特別支援学校などにおいて学校給食の管理と食に関する指導をあわせて担当する教育職員であることから、食の専門家であることに加えて教育職員としての専門性を身につけるような履修計画を組んでいる。学科専門科目には栄養教諭として必要とされる知識や技術を習得するための科目が多く含まれ、学科基礎科目群や発展科目群に「健康栄養論」など特色ある科目を設定している。

グローバル・スタディーズ学科では、各コースが高度な知識と実践力をあわせもつ教員の育成に取り組んでいる。イングリッシュインテンシブ・スタディコースでは、中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）の取得に向けて、英語のネイティブ・スピーカーの教員による授業も含んだ少人数クラスによる英語学習に加え、英語圏での語学研修や留学提携校への長短期留学への参加、グローバルな視野を育む社会科学系科目の履修などが可能となっている。共生社会・スタディコースでは、「国際関係論」「国際経済学」「多文化社会論」といった社会科学の講義を通じてグローバル社会の特質について理解を深めるとともに、地域社会をフィールドとしたアクティブ・ラーニングを必修科目に据え、能動的に地域社会にコミットし、その諸課題を把握することをめざしている。

心理福祉、健康栄養、グローバル・スタディーズの3学科では、上述のように各学科の特徴を生かした教職課程教育を行うとともに、少人数の強みを生かして個別の教職指導を充実させている。教育実習への参加については、教職課程科目の単位取得状況に基づく可否判断基準を設定し、教職課程研究センターのセンター会議における審議を経て判断している。

〔取り組み上の課題〕

教員育成目標やICT機器の活用など今日の学校教育への対応や、アクティブ・ラーニングやグループワークなどの授業方法の工夫について、また『教職実践演習』などにおける履修カルテの活用について、本学では授業担当者や教職課程担当者の裁量に委ねられている部分が多い。積極的に取り組めば多様な可能性を秘めているものの、学生への指導内容に格差が生じる可能性もあり、FD・SDなどの機会を通じてさらに共通理解を図っていく必要があると考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：『学生便覧 2022 年度』
- ・資料 3-1-2：『教育課程（カリキュラム）2022 年度入学生用』
- ・資料 3-1-3：『教職課程履修要項 2022 年度入学生』

・資料 3-1-4：本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学の各学科に設置された教職課程では、取得できる免許状の特性に応じて、教育法などの各種科目を設定し、ICT 機器の活用を含めた授業形式を工夫するなど、実践的指導力を育成する機会を設定するよう努めている。

学外諸機関との連携として、教員養成については宮城県教職員育成協議会養成部会と仙台市教育育成協議会に、また教育実習・介護等体験については在仙大学教育実習等連絡協議会と介護等体験実施宮城県連絡協議会に参加している。本学では教職課程研究センターが中心となり、宮城県・仙台市の教育委員会や各学校、教職課程を有する大学や社会福祉協議会などと情報を共有し、実践的指導力の育成に資するよう努めている。とくに仙台市教育委員会とは、「学生サポートスタッフ」や「算数・数学における学習支援」などの事業を通じて、教職支援室とともに緊密な連携を図っている。

教職大学院との関係としては、宮城教育大学と本学との間で「宮城教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）入学者選抜（選考）試験における特別選抜（選考）協定」が締結されている。この協定は、宮城教育大学教職大学院において、教職への強い意志を有する優秀な学生を高度な実践的指導力を備えた即戦力となる教員として養成し、各地域へ還元することを目的としたものである。この協定を礎に、東北地方の各地域において将来のスクールリーダーとなる教員を育成し、地域や社会に貢献することをめざしている。

〔長所・特色〕

人間発達学科では、1・2年次に大学近隣および姉妹校の公私立幼稚園・小学校における一日観察実習、3年次に幼稚園・小学校教育実習、4年次に介護等体験（小学校教諭一種免許状取得希望者）を実施し、1年次から継続して地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情に触れる機会を設けている。また、幼稚園・小学校教育実習の訪問指導は学科教員が分担して必ず実施し、各学生の状況は幼稚園・小学校教職課程委員会および学科会を通じて教員間で共有される。

心理福祉、健康栄養、グローバル・スタディーズの3学科では、3年次に介護等体験（中学校教諭一種免許状取得希望者）、4年次に中学校・高等学校教育実習又は学校栄養教育実習を実施している。健康栄養学科では、3年次の「臨地実習Ⅰ」において小学校または中学校にて1週間実習を実施し、児童・生徒の実態や学校における教育実践の最

新の事情に触れる機会を設けている。教育実習の訪問指導は各学科教員が分担して必ず実施し、各学生の状況は学科会を通じて教員間で共有されている。また、「教育実習の事前事後指導」において介護等体験や教育実習の報告会を実施して体験の共有化が図られ、「教職実践演習」では地元の教育関係者を授業内講師として招くことによって学生が地域の子どもの実態や教育実践の最新の事情を知る機会を確保している。

〔取り組み上の課題〕

学生の現場経験について、教員養成を目的とする人間発達学科では1年次から一日観察実習を実施しているが、必ずしも十分とは言えないだろうし、その他の学科のカリキュラム上は教育実習と介護等体験のみである。よく言えば学生の自主性を重んじ、各種ボランティアへの参加を期待したいところではあるが、検討の余地があるのではないか。

また、教職課程研究センターと学外諸機関との連携をさらに進め、学生の実践的指導力を高めるよう努めたいと考える。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 : 『教育課程（カリキュラム）2022 年度入学生用』
- ・資料 3-2-2 : 『教職課程履修要項 2022 年度入学生』
- ・資料 3-2-3 : 本学ホームページ <https://sendai-shirayuri.ac.jp/>

Ⅲ. 総合評価

本学では、建学の精神や教育理念に基づいて、人間学部の4学科すべてに、それぞれの学科の特徴をふまえた教職課程を設置している。教育者の育成を目的とする人間発達学科はもちろんのこと、他の3学科においても、教職課程教育は各学科の教育・研究目的や3ポリシーのもとで進められる。各学科では、実務経験を有する教員を含めて適切なスタッフを配置し、各学科の特徴に応じたカリキュラムを編成・実施することによって、実践的指導力の育成をめざすとともに、小規模の特質を生かしたきめ細やかな教職指導が行われている。

各学科の教職課程を支えるのが教職課程研究センターと教職支援室である。教職課程研究センターでは、各学科の教職課程担当者と教務課職員がセンター員となることによって、情報の共有を図るとともに円滑な教職課程運営を可能にしている。さらに、教職支援室とともに、学修支援センター、学生課、キャリアリソース課などと連携することによって、学生の教職へのキャリア支援や地域との連携に取り組んでいる。

本学における各学科を基盤とした教職課程のあり方は、各学科の特徴を生かし、カリキュラムや教職指導を充実させる一方で、いくつかの課題も有すると考えられる。第一に、本学全体としての教職課程教育の目的・目標や育成をめざす教師像がやや不明確なことであり、教員育成指標なども踏まえて検討していく必要がある。第二に、今日の学校教育への対応に遅れを生じる可能性であり、教育内容や教育方法、とくにICT教育環境の急速な変化などへの対応について、教員個人の裁量に委ねるだけでなく、教職課程研究センターが主導的な役割を果たすとともに、FD・SDなどの機会を積極的に活用することが求められる。

さらに、本学自体の動きにも対応していかなければならない。人間発達学科は、取得資格に中学校教諭一種免許状（英語）を加えた子ども教育学科の設置を準備している。他学科の教職課程も、新学科の設置にともなって科目開設の一部変更を予定している。また、大学全体としての内部質保証システムの改善も進められている。本学教職課程の自己点検評価は、これらの動きを踏まえ、今後改めて実施される必要があるだろう。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学では、教職課程に係る全学的な組織として教職課程研究センターが設置されている。そこで、教育職員免許法第 22 条の 8 に基づく教職課程の自己点検評価についても、教職課程研究センターのセンター会議において実施の方針・手順を決定した。実施は教職課程研究センターが担い、2022 年度中の完成をめざすこととした。対象とする領域は、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、学生の確保・育成・キャリア支援、適切な教職課程カリキュラムである。まず、各学科のセンター員が中心となって各学科の取り組みを点検した。次に、主にセンター長が、各学科の記述を参照しながら本学の教職課程全体の取り組みを総括した。こうしてできた報告書（案）がセンター会議において報告され、承認のうえ公表に至った。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人白百合学園					
大学・学部名 仙台白百合女子大学 人間学部					
学科・コース名（必要な場合） 人間発達学科、心理福祉学科、健康栄養学科、グローバル・スタディーズ学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					228名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					192名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					63名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					21名
④のうち、正規採用者数					18名
④のうち、臨時的任用者数					3名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
教員数	24名	17名	10名	1名	0名
相談員・支援員など専門職員数 0名					